

らい」のタイトルで、宮崎大学医療情報部教授 荒木賢二先生と、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科教授の池田 満先生に、医療サービスサイエンスの視点から、クリティカルパスや電子カルテの可能性をご紹介いただきました。

非常に複雑かつ濃い内容でしたので、会場の反応が気になりましたが、「もう少し聞いてみたい」という声も聞かれ、有意義な時間を共有できたものと思っております。

開催にあたり、ご協力いただきました関係者の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

## 第12回茨城県支部学術集会

学術集会会長：JAとりで総合医療センター病院長 新谷周三



会場風景

第12回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会を、2011年11月26日(土)、つくば国際会議場で開催しました。テーマは「電子カルテ時代の職種間コミュニケーション」

です。現在、多くの病院で電子カルテ導入が進む中、チーム医療の原点となる「職種間コミュニケーション」が改めて問われています。電子カルテを日常業務に使用している病院の、医師・看護師・コメディカルの方に、現場での業務をふまえながらパネルディスカッションをお願いしました。また、患者側・医療者側の双方が、それぞれに固有の認知の枠組みによって言葉や出来事を理解することから生まれる認知齟齬(コンフリクト)が問題という立場から、早稲田大学大学院法務研究科 和田仁孝(わだよしたか)教授に「医療メディエーション：医療現場に活かす対話・関係調整モデル」と題して、特別講演をしていただきました。当日、一般演題51題、クリティカルパス展示29題の発表があり、県内の基幹病院の医師・看護師・コメディカルなど568名が参加し、大盛会の内に本学術集会を終えることができました。

## 第7回愛知県支部学術集会

当番世話人：名古屋第二赤十字病院副院長 両角國男

2011年11月26日(土)、ナディアパーク国際デザインセンター 3Fデザインホールにおいて第7回愛知県支部学術集会が開催されました。「今 病院の使命が問われるとき」をメインテーマに、特別講演、一般演題、ランチョンセミナーを行い、関係者も含めて353名が参加されました。

特別講演では、石巻赤十字病院医療社会事業部長の

石井 正先生に「石巻医療圏における東日本大震災への対応」と題してご講演いただきました。宮城県災害医療コーディネーターであり、今回の震災対応で石巻圏合同救護チームの



会場風景

統括を務められた石井先生の講演は、未曾有の大災害に直面した石巻赤十字病院の闘いの記録でもあり、参加者に大きな感銘を与えました。

一般演題には12題の発表があり、地域医療連携、医療安全、クリティカルパス等の例年の討議に加え、大震災に関連して災害医療、病院のITなど幅広い分野で熱心な発表と討議がなされました。

ランチョンセミナーでは、日本医療メディエーター協会理事であり同東海支部代表でもある安城更生病院医療安全部長兼神経内科代表部長の安藤哲朗先生に「医療マネジメントに生きるメディエーションモデル」と題してご講演いただきました。

多数のご参加をいただき活発な討論が交わされ有意義な学術集会を開催することができました。ご協力ご支援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

## 第1回群馬県支部学術集会

学術集会会長：伊勢崎市民病院院長 荒井泰道

群馬県では今まで支部活動は行われていませんでしたが、2011年11月27日(日)に学術集会を開催しました。高崎市ニューサンピアを会場とし、参加者総数は146名でした。特別講演では大船中央病院顧問の北濱昭夫先生より「よみがえれ医療ーアメリカでの経験から日本の医療現場を考える」を、ランチョンセミナーではがん感染症センター都立駒込病院外科部長の高橋慶一先生より「東京都のがん医療における地域連携～がんの医療体制が変わる～」のご講演をいただきました。シンポジウムとして「チーム医療の最前線」を設けICT、NST、緩和ケア、薬剤師の病棟活動、地域連携等の先進事例の報告が行われました。別会場でクリティカルパスの展示が行われ46題が発表されました。第1回のため以上の内容でしたが医療の質、チーム医療、地域連携等について参加者にとって得るものは大きく充実した実りある学術集会になりました。支部役員会ではこれを第一歩に毎年定期開催し、群馬県の医療マネジメント、医療に貢献できるように発展させることを確認いたしました。今回の開催にあたり、ご協力いただいた関係各位の皆様にご感謝申し上げます。